




 確かなものを 地球と未来に  
 一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**  
 JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 **総務広報委員会**

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

<b>本 部</b>	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目5-1 TEL03-3552-3201 FAX03-3552-3206	
<b>北海道支部</b>	〒060-0004 札幌市中央区北四条西3丁目 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528	北海道
<b>東北支部</b>	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465	宮城・青森・岩手・秋田・山形・福島
<b>関東支部</b>	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206	東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野
<b>北陸支部</b>	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884	新潟・富山・石川
<b>中部支部</b>	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363	愛知・岐阜・静岡・三重
<b>関西支部</b>	〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031	大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
<b>中国支部</b>	〒730-0051 広島市中央区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380	広島・鳥取・島根・岡山・山口
<b>四国支部</b>	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176	香川・徳島・愛媛・高知
<b>九州支部</b>	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ  
<http://www.nikkenren.com/>

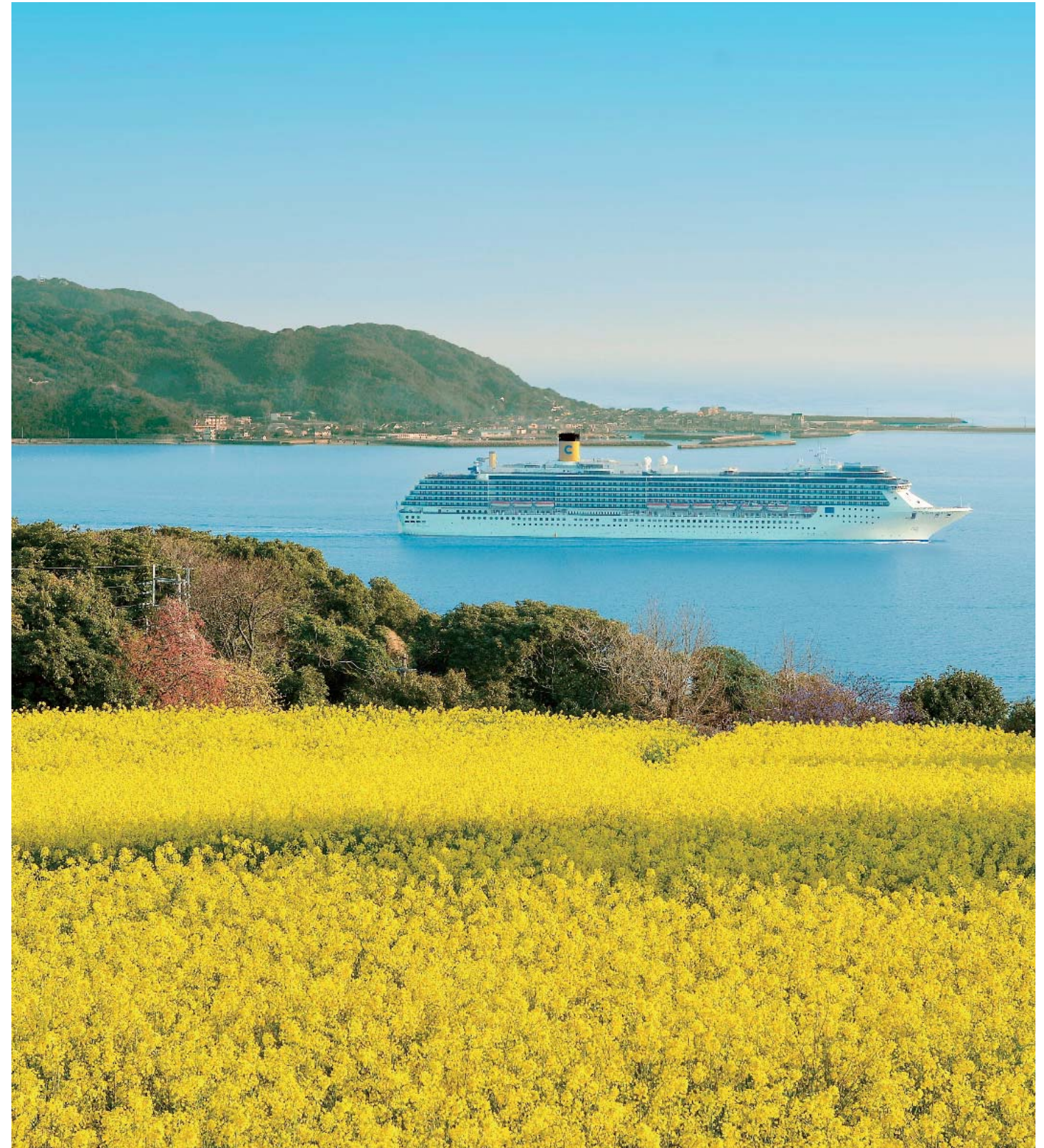
日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。

九州の建設業 [キーストン]

# Keystone

vol.32  
平成28年2月発行

Keystone / キーストン 要石(かなめ石)の意。社会資本の整備を通じて当団体が、豊かな未来づくりのかなめとなるよう願いをこめて。



能古島とクルーズ船(提供:福岡市)

一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部

# Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会  
九州支部 支部長  
**相川 善郎**  
(大成建設株) 執行役員九州支店長

## 魅力ある建設業をめざして

九州支部長の相川でございます。

皆様には当支部の事業活動につきまして、かねてから格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

最近、「担い手不足」、「女性の活躍推進」という言葉を本誌をご覧いただいている方々も多く耳にしたいと思います。日本の少子高齢化の進展に伴い、建設業だけではなく、多くの産業で担い手確保に動いています。そういう中において、日建連では昨年、現在から2050年までの超長期のスパンに立った「建設業の長期ビジョン」を策定しました。

このビジョンは、デフレ経済のもとで建設需要が20年近く減少を続け、技能労働者の処遇の低下や若者の採用抑制による極端な高齢化を招くなど様々な歪みを招く結果となったことを受け、最近の建設市場の需要増の変化を国民の負託に応えられるたくましい建設産業へと再生、進化する好機と受け止め、その道筋を提示したものです。

長期ビジョンで提示されたもののうち、担い手の確保・育成については、建設業への理解を深めていただくことを目的に「親子現場見学会」や「学生を対象とした現場見学会」等数種の現場見学会を開催しています。「親子現場見学会」は、一般公募で参加者を募り、小学生親子を対象に夏休みに開催しています。「学生を対象とした現場見学会」は、発注者・設計者・施工者の三者に一つの事業がどういった役割分担で完成するのかや、やり甲斐等も含めてお話いただき、学生さんの進路選択の参考となると好評を得ています。

また、担い手確保に欠かせない「女性の活躍推進」については、女性が働きやすい、普通に活躍できる産業を目指してトイレ・更衣室等の環境改善、女性進出のための入札制度改善、女性技術者の交流促進等に取り組んでいます。

担い手確保に関して他には、週休2日等の休暇取得促進、長時間労働解消等労働環境改善にも取り組んでいるところです。

建設業は、国民が必要とする生活と産業の基盤となる社会資本の提供役を担い、それらの適切な維持修繕・更新を担う国民に不可欠な産業であると確信しております。

本誌を手にした皆様のご理解ご協力を賜り、建設業界の健全な発展と魅力ある建設産業づくりのために今一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 九州の建設業 [キーストン]

# Keystone

vol.32  
平成28年  
2月発行

## contents

### 九州ウォッチング

## 2 住みたい、行きたい、働きたい、 アジアの交流拠点都市 -福岡市-

~人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市をめざして~

### けんせつ小町

## いつもイキイキ! けんせつ小町!

8 大成建設株式会社九州支店  
伊良原ダム建設工事作業所  
手嶋 菜美さん

10 株式会社奥村組九州支店 建築部  
阿部 由美さん

12 けんせつ小町大集合



### 市民現場見学会

## 来て、見て、感じてみよう! 土木・建築の魅力

14 ●大分川ダム建設工事

16 ●親子現場見学会 五ヶ山ダム建設工事

17 ●おやじの日現場見学会 福岡201号 筑豊烏尾トンネル(飯塚工区)新設工事

18 ●太宰府市体育複合施設新築工事

19 ●土木の日見学会 長崎497号調川トンネル1号新設工事・  
唐津港(東港地区)岸壁(-9m)(改良)(耐震)工事

20 ●鉄道工事見学会 熊本駅周辺鉄道高架化事業

### Event news

21 ●土木の日ファミリーフェスタ2015  
●インターンシップ講演会

### Report

22 ●鉄道建設工事技術講習会  
●建設技術講演会

23 ●九州建設技術フォーラム2015  
●災害防止総決起大会

24 ●意見交換会  
●円滑な施工の確保に関する講習会

25 ●第1回現場実務勉強会  
●安全環境委員会活動



### Outline

26 団体の概要

### Information

28 会員・役員名簿



住みたい

行きたい

働きたい

# アジアの交流拠点都市

人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市をめざして

## 〈福岡市〉



福岡市長

高島 宗一郎 (たかしま そういちろう)  
1974年11月1日生まれ 大分県大分市出身

■略歴

1997年KBC九州朝日放送に入社。福岡の朝の顔としてワイドショーや環境番組のキャスターを務める。

2010年12月に福岡市長就任。

都市経営の基本戦略「都市の成長と生活の質の向上の好循環の創出」に沿った様々な施策を展開。観光客数や企業立地数、市税収入が増え、住みやすさに対する市民評価、市政への信頼度も向上し、世界で最も住みやすい都市ランキングでベストテンに選ばれた。特に創業支援に注力し、2014年3月には国家戦略特区を獲得。規制改革等による新しい価値を生み出す環境づくりに精力的に取り組む。

2014年11月、史上最多得票により再選。同年12月2期目就任。

「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」の実現に向けて、基本戦略に掲げる「好循環」を加速させるとともに、福岡市を次のステージへと押し上げるためのチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を全力で推進中。

〈主な役職〉  
 ・スタートアップ都市推進協議会会長  
 ・日本地下鉄協会会長  
 ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問  
 ・クールジャパン戦略推進会議有識者委員  
 ・世界経済フォーラムGLOBAL SHAPERS 福岡HUB代表

福岡市は、半世紀以上前の1961年に、まちづくりの指針となる「総合計画」を策定し、見直しを繰り返しながら、秩序あるまちづくりを進めてきました。先人たちの努力によって、コンパクトで充実した都市機能と豊かな自然環境の調和がとれたまちが形成され、国内外の多くの人から「住みやすいまち」と評価されています。

現在の総合計画は、1万人を超える市民の皆さまにご意見をいただき策定したもので、経済的な成長と質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざすこととしています。

この総合計画の着実な推進とともに、「天神ビッグバン」や「ウォーターフロントネクスト」など「FUKUOKA NEXT」の取組みにスピード感を持ってチャレンジしていくことで、福岡を次のステージに飛躍させ、二千年にわたるアジアとの交流により蓄積された歴史や文化、豊かな自然、食などの魅力にあふれる、この素晴らしいまちを未来の世代に引き継いでいきます。

## 福岡市の基本計画

■総合計画は、福岡市の将来の健全な発展を促進するための、市の総合的なまちづくりの計画で、長期的にめざす都市像を示した「基本構想」を頂点に、10年間の長期計画である「基本計画」、4年間の中期的な計画である「実施計画」と3階層からなっています。

### 〈1〉基本構想

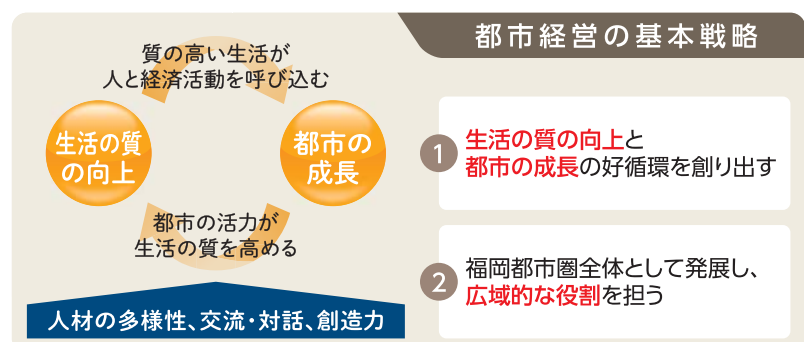
「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」をキャッチフレーズにして、長期的にめざすべき4つの都市像を掲げています。

#### 4つの都市像

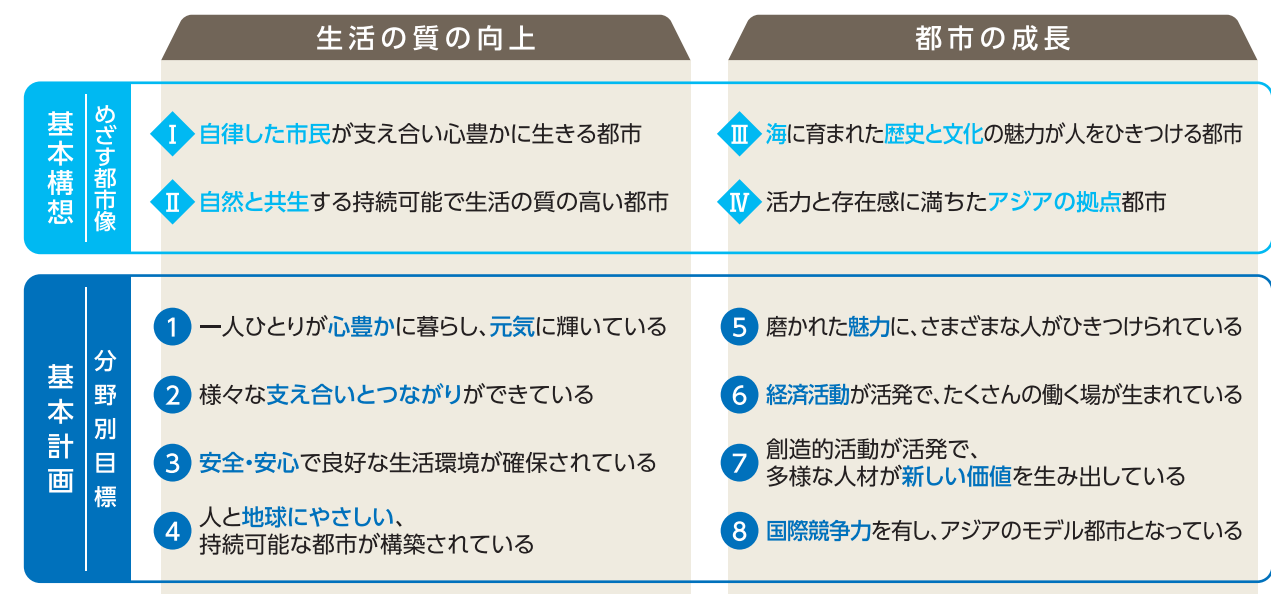
- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

### 〈2〉基本計画

「生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す」と「福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」ことを都市経営の基本戦略に、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスが取れたコンパクトで持続可能な「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指してまちづくりに取り組むこととしています。



また、まちづくりの目標として、8つの「分野別目標」と「空間構成目標」と「区のみまちづくり目標」を設定しています。



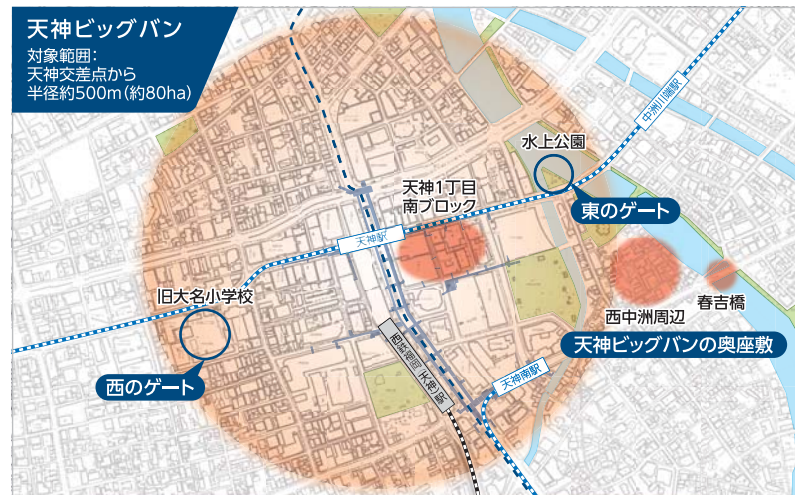
## 福岡市の主要プロジェクト

- 福岡市は、国内外から人や企業が集まり、経済的に成長を続け、元気なまちと評価されている一方で、成長に伴い、需要が高まるにつれ、ニーズに応えられずにお断りが生じているコンベンション施設、人流・物流の過密化、老朽化した都心のビルなどの供給力不足という課題が生じています。
- 現在、福岡を次のステージに飛躍させるためのチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を一体的に進めており、ここでは、そのような福岡の成長をささえる主要なまちづくりプロジェクトを紹介します。

### 1 都心部機能強化

#### 1-1 天神ビッグバン

- 天神地区では、国家戦略特区により獲得した「航空法の高さ制限の特例承認」にあわせて、まちづくりを促す容積率の緩和や附置義務駐車場に関する条例の改正などを福岡市の独自施策として実施することで、都市機能の大幅な向上と増床を図って行くこととしており、今後10年間で30棟の民間ビルを誘導します。
- 10年間の建設投資効果は2,900億円、延べ床面積は現行の約1.7倍、雇用者数は約2.4倍に拡大し、事業完了後は、毎年8,500億円の経済波及効果を見込んでいます。
- 既に天神一丁目南ブロック等のプロジェクトが動き始め、都心循環BRTや附置義務駐車場の見直しなど交通対策の検討も進めています。
- また、水辺を活用した水上公園の再整備や、街路に花や緑、ベンチを設置するなど、快適で潤いのある空間づくりにも取り組めます。



#### 1-2 ウォーターフロント地区再整備

- ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）については、地区の強みであるMICE機能や海のゲートウェイ機能のさらなる充実・強化を図るとともに、都心部の貴重な水辺を活かした賑わいを創出することで、都心部の新たな拠点として、市民や国内外の方々にも親しまれるよう再整備に取り組んでいます。
- まずは、MICE機能の強化を図るため、新たな展示場等の整備を進めるとともに、ホテルや賑わい施設等の民間施設の誘致に取り組んでいくこととしています。



#### 1-3 都心部の機能強化を支える交通体系

「天神ビッグバン」など都心部の機能更新やインバウンド等に伴って増加する交通需要に対応するため、より一層公共交通を主軸とし多様な交通手段が有機的・効率的に連携した総合交通体系の構築を目指しています。

このため、地下鉄七隈線の整備などによる鉄道ネットワークの強化や幹線道路ネットワークの形成、様々な交通マネジメント施策の推進に引き続き取り組むとともに、特に都心部においては、鉄道ネットワークと連携した都心循環BRTの形成、バス路線の再編・効率化、都心周辺部駐車場（フリンジパーキング）の確保をパッケージ化した施策を柱として、自動車交通の削減・抑制や公共交通への利用転換を誘導していきます。



#### 1-4 地下鉄七隈線延伸事業

- 地下鉄七隈線は、市西南部地域の慢性的な交通渋滞の緩和、効率的で利便性の高い公共交通体系の確立などを目的として計画され、橋本～天神南間（12.0km）を平成17年2月に開業しました。
- 現在、平成32年度開業を目指して、天神南～博多間（建設キロ：約1.4km）を結ぶ七隈線延伸事業を進めています。これにより、市西南部から博多駅方面への移動時間が、天神で乗り換えた場合と比べて最大14分短縮するほか、都心部内での移動や福岡空港への移動もますます便利になり、都心部の交通渋滞や地下鉄空港線の混雑の緩和にもつながります。



### 2 国際ゲートウェイ機能の強化

#### 2-1 博多港の機能強化（クルーズ船受入環境充実等）

- 博多港における国際海上コンテナ取扱個数は、平成26年に過去最高の91万TEUを記録し、既存のコンテナターミナルは満杯に近い状況となっています。そのため、増加する貨物に対応し、効率的で使いやすい港づくりを進める観点から、アイランドシティコンテナターミナルの整備・拡充に取り組んでいます。
- また近年は、アジアを中心としたクルーズ需要の高まりにより、博多港へのクルーズ船の寄港が急増しており、平成27年には寄港回数が259回で日本一となっています。さらに、船舶の大型化も進んでいることから、中央ふ頭において世界最大級のクルーズ船の受入及び大型クルーズ船の2隻同時着岸の実現に向けた取り組みなどを進めています。



## 2 アイランドシティ

- 博多港の航路整備で生じるしゅんせつ土砂などを活用して誕生した約400haの都市空間において、新しい「まちづくり」「みなとづくり」を行い、福岡市の将来をリードする先進的モデル都市づくりを推進しています。
- 「まちづくりエリア」では、平成17年のまちびらきから10周年を迎え、人口は約7,000人(平成27年12月末時点)、福岡市立こども病院をはじめとした健康・医療・福祉関連施設の集積が進むほか、九州最大級の温浴施設もオープンし、集客・交流、商業関連施設の整備も進んでいます。国際物流拠点の形成を目指す「みなとづくりエリア」においても、新青果市場が平成28年2月に開場するほか、平成27年12月末時点で分譲可能な土地はすべて分譲済または分譲予定者が決定となる(3年連続)など、まちづくり・みなとづくりは着々と進展しています。
- 今後、都市高速道路の延伸や総合体育館の整備なども予定されており、アイランドシティも次のステージへ向けて進んでいきます。



※イメージ図は、今後の設計協議等により、変更となることがあります。



照華のまち(平成17年9月まちびらき)



集積が進む高度専門医療機関

## 3 福岡空港の機能強化

- 福岡空港は、博多駅から地下鉄で5分の場所に位置し、世界屈指の好アクセスを誇り、九州・西日本地域の発展を支える基盤として重要な役割を果たしています。
- 平成26年度の乗降客数は初めて2,000万人を超え、発着回数は約17万1千回に達し、いずれも羽田、成田に次ぐ国内第3位となっています。一方、ピーク時間帯には、増便が困難なほど混雑しており、空港の機能強化は重要かつ喫緊の課題です。
- このような混雑問題や将来の航空需要に対応するため、平行誘導路の二重化(平成24年度から実施中)及び滑走路増設(平成27年度事業着手)の早期完成に向け、事業者である国と連携、協力して取り組んでいきます。



## 3 九大移転に伴うまちづくり

### 1 学研都市づくり

- 九州大学は、箱崎、六本松、原町(粕屋町)地区のキャンパスを福岡市西区の元岡、桑原地区に移転統合することで、世界レベルの新たな研究教育拠点を創造することとしています。平成17年10月には伊都キャンパスが開校、既に工学系、理学系、全学教育等が移転し、1万人を超える学生・教職員が活動しています。
- 移転先となる本市西部の活力創造拠点づくりを進めるため、平成30年度の移転完了に向けた九州大学統合移転事業への協力支援や、研究開発機能の立地誘導、また、周辺のまちづくりや道路・河川などの基盤整備に取り組んでいます。



### 2 跡地のまちづくり

- 箱崎跡地(約43ha)では、「跡地利用計画(H27.3)」に基づき、良好なまちづくりを推進するため、地域の代表や学識経験者等からなる「箱崎キャンパス跡地利用協議会」において、まちづくりルールの検討を行っています。また、まちづくりに必要な都市基盤、土地利用の計画など、段階的かつ速やかな土地利用転換を目指し、九州大学とともに検討を進めています。
- 六本松跡地(約6.5ha)では、緑豊かでゆとりのある空間づくりと地域拠点にふさわしい多様な都市機能の誘導を図るため、「まちづくりガイドライン(H23.9)」などに基づき良好なまちづくりを進めています。法曹関連施設が集積することで風格あるまちが形成されるとともに、福岡市科学館の整備により教育的・文化的な空間を創出し、新しい福岡市の顔となるまちの実現に向けて取り組んでいきます。



九州大学箱崎キャンパス周辺



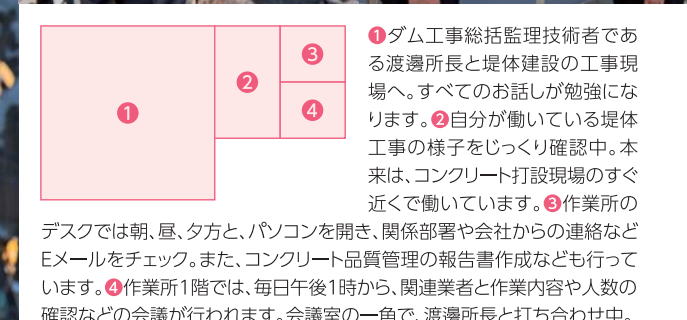
九州大学六本松キャンパス跡地周辺

いつもイキイキ!

土木編

# けんせつ小町!

「けんせつ小町」とは、建設業界で働く女性技術者、技能者の愛称です。



①ダム工事総括監理技術者である渡邊所長と堤体建設の工事現場へ。すべてのお話しが勉強になります。②自分が働いている堤体工事の様子をじっくり確認中。本来は、コンクリート打設現場のすぐ近くで働いています。③作業所のデスクでは朝、昼、夕方と、パソコンを開き、関係部署や会社からの連絡などEメールをチェック。また、コンクリート品質管理の報告書作成なども行っています。④作業所1階では、毎日午後1時から、関連業者と作業内容や人数の確認などの会議が行われます。会議室の一角で、渡邊所長と打ち合わせ中。

## 魅力は、構造物が完成したときの達成感。 建設業界は、これから女性が活躍する時代です。



### 現場情報

- 工事名称 伊良原ダム建設工事
- 施工企業 大成建設・フジタ・岡本土木特定建設工事共同企業体
- 工事場所 福岡県京都郡みやこ町 岸川下伊良原地先
- 形式 重力式コンクリートダム
- 堤高 81.3m
- 堤頂長 295.0m
- 堤体積 419,000m<sup>3</sup>
- 総貯水容量 28,700,000m<sup>3</sup>



### 志望動機は身近な構造物をつかって 子どもに見せたかったこと。

建設分野と関わるきっかけになったのが、環境という言葉に惹かれて入学した大学の社会環境工学科でした。地球温暖化など環境関係に興味があったことからこの学科を選んだのですが、学んだのは土木分野の知識。けれども学ぶにつれて建設分野に魅力を感じるようになり、4年間の学びを経て建設会社の当社に入りました。

また一般的に、父親が「この橋はお父さんがつくったよ」という話をすることはあるように思いますが、母親の言葉としてはあまり聞きません。ですから私が、自分の子どもに「この橋はお母さんがつくったのよ」と自慢してみたかったことも建設業を志望した理由です。それと、どうせ働くなら女性が珍しい業界で働いてみようかなという好奇心のような気持ちもありました。

### 初めて携わる大きなプロジェクトで コンクリートの品質管理を担当。

現在は、「伊良原ダム建設」の工事係の一人として仕事に携わっています。今まで数カ所の建設工事に携わってきましたが、このような大きなプロジェクトは初めての仕事になりました。私の担当は、コンクリート打設に用いる骨材の品質管理、あるいは現場で製造したコンクリート自体の品質管理など。たとえば製造した

コンクリートのフレッシュ性状や圧縮強度試験結果が規格に適合しているかをサンプル抽出して調べ、発注者へも報告しています。

もちろんコンクリート打設にも立ち会います。現場ではコンクリートが指示通りにきちんと打っているか、締め固めがなされているかを確認するほか、進行状況を確認する工程管理、現場で事故が起こらないようにする安全管理も私の仕事です。ダム工事現場は24時間動いていますので、夜勤当番として1週間コンクリート打設などの作業の現場管理として出勤することもあります。

### 現場の仕事ならではの 満足感、達成感、やりがいがある。

まだ現場での経験も少ないのですが、私の指示どおりに工事が進んだときの満足感、また構造物が完成したときの達成感がこの仕事にはあります。確かに日々の仕事が、少しハードだと思うことも少なくありません。しかし、それだけに自分が携わった構造物の完成時には何とも言えない感激があります。

やりがいと言う意味では自分が考えて計画した方法や段取りでスムーズに仕事が進行したとき、またある工事の仕切りを任せてもらえたときにそうした実感があります。「この仕事は君がリーダーとなって管理してほしい」と上司から言われたこともありました。以前にも増して頑張ることができました。

### 現場でさまざまな経験を積み 結婚後もこの仕事に携わりたい。

これからの目標は、作業の流れをもっとつかむことです。的確に流れを把握して、より効率的な工事管理ができるようになり

たいと思っています。それからダム工事以外の様々な工種の経験を積み、自分の成長につなげたいとも考えています。資格にもチャレンジしたいですね。できれば今後は「コンクリート主任技士」や「1級土木施工管理技士」などの資格も取得し、スキルアップを果たしたいです。

将来の夢は、もちろん自分の子どもに私が携わった構造物を見せること。橋梁など、身近なものを見せてあげたいです。それには、まず結婚することが必要ですが…。できれば結婚後も仕事を続けたいので、そこはパートナーと相談して決めたいと思っています。この先もずっと建設業の仕事に携わり、いずれは現場に戻って働きたいです。

### 女性が働きやすい建設業を目指して 環境はもっと改善されるはず。

建設業界に関心を持つ女性にメッセージをおくとすれば、少しでも興味があるのならまずはやってみてほしいということです。どんな仕事であっても苦勞はつきものなので、ぜひ興味があれば建設分野の仕事に就いてほしいですね。

今、建設業界でも女性が働きやすい環境が整備されている途中です。出産後に退職する女性も少なからずいる中、女性が結婚や出産後も安心して仕事ができるように国や日建連も取り組んでおり、当社でも環境整備を推進しています。たとえば女性が働くことへの周囲の意識改革、労働時間の短縮、育児休暇などについて、これからもっと環境が改善されていくことでしょう。

建設業界も人員不足という状況なので、業界を女性の力で支えるためにぜひ入っていただきたいですね。



大成建設株式会社九州支店  
伊良原ダム建設工事作業所  
手嶋 菜美さん

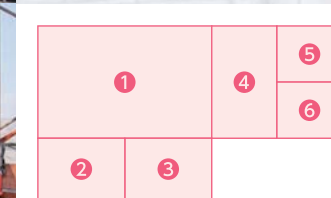
てしま なみ◎福岡県出身。熊本大学工学部社会環境工学科卒業。平成23年大成建設株式会社入社。現在、伊良原ダム工事現場における堤体班コンクリート打設担当としてコンクリート品質管理等に当たる。

いつもイキイキ!

建築編

# けんせつ小町!

「けんせつ小町」とは、建設業界で働く女性技術者・技能者の愛称です。



- 1 構造監理担当の松延さんと屋上で鉄筋組立て状況を確認。
- 2 事務担当の伊藤さんと打合せ。
- 3 協力会社の方々と現地で打ち合わせ。
- 4 事務所で設計図と施工図の照合や施工数量のチェック。
- 5 免震装置の設置状況を確認。
- 6 働きやすい職場づくりの一環として、女性専用の仮設トイレユニットを設置。

## 多くの人が関わる建設業の仕事には魅力がある。家庭を大切にしながら、誇れる仕事を続けたい。



### 現場情報

- 工事名称 株式会社奥村組九州支店 社屋・寮新築工事
- 工事場所 福岡県北九州市八幡東区山王2-19-1
- 工事規模 S・RC造、地上6階、軒高27.27m、最高27.70m
- 敷地面積 949.45㎡
- 建築面積 726.46㎡
- 延床面積 3,374.62㎡
- 特殊構造 免震構造 (中間階免震:1階と2階の間が免震層)



### 阪神・淡路大震災を契機に生まれた地震に強い建物づくりへの思い。

建設業を志したのは、高校3年生の時に発生した阪神・淡路大震災がきっかけです。私たち家族は幸いにも家屋を含め大きな被害を受けませんでしたが、大勢の方が大変な目に遭った悲しい出来事でした。この時を境に「地震に強い建物をつくり、人命や財産を守りたい」という思いが強くなり、建築学科のある大学に進学することに決めました。

奥村組に入社した時点では構造設計業務を担当したいと思っていましたが、最初に配属された工事所で施工管理業務の面白さにハマり、現在に至っています。

### 周囲の方々に支えられながら所長としての仕事に取り組む。

現在、弊社九州支店社屋・寮新築工事に従事し、工事所長と日本建設業連合会に登録しているけんせつ小町工事チーム「八幡ひまわり」のリーダーを兼任しています。どちらも初めての経験であり、原価管理、発注業務、図面検討および取材対応など余り経験してこなかった業務が多く苦労していますが、社内や協力会社など関係者に支えられながら、日々精力的に業務をこなしています。

### 大勢の人が関わる現場の仕事には何物にも代えがたい魅力がある。

仕事の面では一つの目標に向かって人と関わりながら働くのが好きなこともあり、建設現場で発注者や設計者をはじめいろんな作業員と出会い、やり取りしながら働けることに非常に満足しています。特に、建設現場では実際に建物が出来上がっていく過程が見られるので、関係者一同で味わう完成時の喜びや達成感はとて大きく、何物にも代えがたい魅力があると思っています。

建設現場の仕事は3K(キツイ・汚い・危険)の代名詞で表現されることが多く、決して楽な仕事とは言えませんが、その状況に負けず誇りを持って大勢の人が仕事をしているので、一緒に働いていて励みになります。同じ目標に向かって共に働ける仲間がいるのは、頼もしくもあり嬉しいことです。

### 10年間のブランクをいち早く埋め、技術者として子育て中でも働きたい。

技術者としての当面の課題は、店内勤務や出産等により10年間ほど施工管理業務から離れていたブランクをいち早く埋め、誰にでも一緒に働きたいと思ってもらえる存在になることです。

将来の夢は、子育てしながら一人前の建築技術者として働き続けることです。「あの建物は、母さんがつくったんだよ」と子どもに自慢するのもいいですね。また、後輩の女性技術者たちがどんどん増え、建設現場で働く女性の姿が普通に見られるようになっていって欲しいとも思っています。

### 建設業を多くの女性の力で支え大いに盛り上げていきたい。

建設業は他産業と比べて女性の数が少ない産業であることは否めませんが、業界全体で女性に配慮した職場環境づくりにも積極的に取り組んでいるところです。男性が多い職場と思われてきた建設現場にも、昔と違って女性が普通に働き活躍していることを広く社会の皆さんに知って欲しいと思います。

「モノづくり」の面白さはいつの時代も尽きることがないと考えており、女性にとっても建設業の仕事はやりがいのある仕事になると思います。地震や台風など災害が多い我が国で、人々の安全・安心な暮らしを支える建設業の仕事は自信を持って「誇れる仕事」だと言えるのではないのでしょうか。建設業の中にもいろんな仕事があり、皆さんに合った仕事があるはずで、す。「好きこそものの上手なれ」と言う言葉もあるように、建設業に興味があれば職業の選択肢として考えていただき、飛び込んで欲しいと思います。ぜひ私たちと一緒に多くの女性の力で建設業を盛り上げていきましょう。

株式会社奥村組九州支店 建築部

阿部 由美さん

あべ ゆみ◎兵庫県出身、神戸大学工学部建設学科卒業。平成11年株式会社奥村組入社。現在、同社九州支店社屋・寮新築工事において現場代理人(工事所長)と日本建設業連合会に登録したけんせつ小町工事チーム「八幡ひまわり」のリーダーを兼任。



# けんせつ小町 大集合



けんせつ小町施設見学会・懇談会・交流会

■日時／平成27年12月16日 ■施設見学会／MJR六本松新築工事（施工企業：西松・松尾JV）

## 女性が活躍できる 魅力的な建設業界を目指して。



### 現場を学ぶ、未来を語る、仲間とつながる。

九州支部建築委員会では平成27年12月16日に、支部初となる「けんせつ小町施設見学会・懇談会・交流会」を開催しました。これは会員企業の「女性技術職員（けんせつ小町）」を対象に、施設見学を通じて知識の習得を行うとともに、懇談会・交流会では意見交換によって会社を越えた交流の促進を図り、女性の活躍促進・育成を更に推進しようという目的。当日は、けんせつ小町33人が参加してマンション新築工事の現場見学、女性技術者を増やしていくためのグループ討議と提案、そして参加者同士の交流など計3ヶ所での取組みに奔走しました。



### 施設見学会

マンションの建築状況、女性の働く環境づくりなどを確認。

最初に行われたのは、MJR六本松（店舗付共同住宅／分譲マンション）の新築工事の見学です。けんせつ小町たちは、まずマンション建築を担当する西松建設の女性技術者2人から工事の概要、そして女性技術者・技能者で構成する「なでしこ工事チームLJR（Ladies Joy Ropponmatsu）」の活動内容の説明を受けました。

工事概要説明では、敷地や建物の概要、平面図や外観イメージ、工事スケジュール、現場場内マップ、地域・環境配慮などについて、また、LJRの活動内容の解説ではメンバーの紹介、組織表や活動時期・特色、環境整備の実施、LJRの活動実施状況などの内容が詳細に語られ、全員が真剣に耳を

傾けていました。中でも注目を集めたのが、女性のために設けた専用休憩所やトイレ、女性用安全帯や女性用ヘルタイの使用などについての説明。どのような状況なのか、全員が話に耳を澄ませていました。

説明が終了すると、建築工事の現場へ移動。朝礼広場での概要説明を受けた後に、LJR休憩所やトイレの見学、清掃道具監理状況や産廃物管理状況の確認、LJR掲示物を見学して回りましたが、質疑では「綺麗な現場で大きな看板が目についた」などの感想のほか、「女性専用設備はレンタルもあるが?」「なでしこ工事チームはこの現場だけか?」「現場での男女の比率は?」などの質問があり、さまざまな発言に見学会は盛り上がりを見せました。



現場の朝礼広場で概要を説明



女性専用休憩所を見学



建物についても熱心に質問

### 懇談会 交流会

魅力的な建設業のあり方などを議論。その後は楽しい交流会へ。

見学会の後は、懇談会会場のホテル会議室へ移動。会場では6グループに分かれて討議と発表を行うことになりました。開催に先立ち、建築委員長が「日建連では今年策定した長期ビジョンで、2019年までに女性技能者を倍増、2025年度までに3倍増の20万人以上の獲得を目指している。懇談会では、皆様に女性技術者・技能者を増やして行くためにどのような活動を展開し、女性が普通に活躍できる産業を目指すにはどのような方策が必要かなどをご提案いただきたい」と挨拶。その後は司会者の指示のもと、6グループそれぞれにテーマを決めて討議となりましたが、メンバーは初顔合わせということもあり、所属会社や担当している仕事なども話しながら

意見を述べ合い、発表内容をまとめていきました。

そして、いよいよ発表の時間。各グループがまとめた内容を紙に書き出してのプレゼンテーションです。まずは第6班の「建設業の魅力を女性にアピール」という発表を皮切りに、「女性が普通に活躍できる産業を目指して」「出産、子育てへのサポートの充実」というテーマのほか、「女性が働き続けていくには」「建設業の女性の本音」といった独自の視点のテーマでの発表もあり、会場には感心する声や賛同の声、笑い声も混じり合い懇談会は大いにヒートアップしました。

有意義な時間となった懇談会の後は、再び場所を移しての交流会。立食パーティ形式ということも手伝ってか、けんせつ小町たちは美味しい料理を頼張りながら積極的に名刺を交換したり、写真を撮ったり、連絡先などを教え合ったりしながら楽しい時間を過ごしました。



グループ内で熱い意見が飛び交う



参加者の前でプレゼンテーション



会社の枠を越えた楽しい交流会



来て、見て、感じてみよう！  
土木・建築の魅力

# 市民現場見学会

平成14年11月にスタートした「市民現場見学会」は、平成17年10月末までの3年間で参加者100万人を達成し、平成27年9月末で264万人に達しています。例年、地域の発展や安全・安心な生活環境に貢献する社会資本が、どのようにして創られていくかを物ではなく、事業を推進する人（発注者・コンサル・施工者）とその役割に焦点を当て説明し、社会資本整備の必要性や建設産業への理解を深めていただくため、高校生、高等専門学校学生や大学生を対象に現場見学会を開催しています。



## 大分川ダム建設工事



- 日 時／平成27年11月11日
- 場 所／大分県大分市
- 施工企業／鹿島・竹中土木・三井住友特定建設共同企業体



着々と建設が進む広大なダム工事現場



道路脇の見学場所で説明を聞く学生たち



大きな建設車両と力くらべ??

### 未来の「けんせつ小町」候補も多数参加！ ダム工事の規模や大きな建設車両に驚きの声！

建設業の魅力を伝えて建設業の担い手を確保するとともに、社会資本整備に伴うストック効果などを広くアピールする現場見学会。大分川が市街を流れる大分市では洪水調節等を目的に大分川ダムの建設が進んでいますが、この工事現場へ大分工業高等専門学校の都市・環境工学科の学生たち43人が訪れ、ダム建設工事の様子を見学しました。参加学生のうち女子学生は11人ということで、将来、「けんせつ小町」として活躍したいという志望者が増える良い機会にもなりました。

見学会に先立ち、学生たちは発注者からダム建設の経緯など概要を、設計者や工事に関わる施工者からそれぞれ仕事の内容や仕事のやりがいなどの説明を受けました。自分の将来に関わる話とあって学生たちも熱心に聞き入っている雰囲気。設計を担当したコンサルタント会社には大分高専を卒業した先輩が働いており、その先輩が説明を担当したことから、学生たちも先輩がどんな仕事に携わっているのか興味津々のようでした。

その後、バスに乗り込んで現場へ。まずは道路脇の見学場所

からダム工事全体を見渡した後、実際の工事現場へと移動しての見学となりました。現場では、原石山から骨材を運搬する重ダンプに乗車したり、バックホウの大きなシャベルやホイールローダーなどを観察したりしながら、現在、先端技術によってどのようなダム工事が行われているかをその目でじっくり学んでいました。

見学後は、「実際に建設車両を動かしてみたい」「こんな大規模の工事で驚いた」といった感想が聞かれたほか、質疑では「大勢の作業員をまとめるコツは?」「建設業界で取得しておくべき資格などは?」といった質問が投げかけられ、学生の建設業に対する関心の高さが伺えました。「このダム建設工事では、最新の情報通信機器などを活用した省力化施工も進められています。皆さんもぜひこうした建設現場の担い手になってください」という作業所長さんの言葉で見学会は終了となりました。

見学会が終了すると、女子学生たちに事務局から日建連オリジナルの「けんせつ小町バッジ」をプレゼント。帰りのバスの中でさっそく胸に取り付け、喜んでいる女子学生たちの姿が印象的でした。



### 参加者の声

今回の大分川ダム見学会にて自分は将来の自分の進路設計について重要なことをいくつも発見することができました。まず一つ目は土木の規模の大きさです。実際に現場で使われている重機を見学させて頂いたり、実際に大分川ダムを上から全体的に、そして中から見上げるように見学させて頂き改めて自分の学んでいることがいかに規模が大きくなるのか、安全を守るために重要なこと、そして責任感を深く感じることができました。二つ目は大分川ダムの工事に関わる方々の仕事に対する熱意と、そしてコミュニケーションの大切さです。いろいろな方々の話を聞かせていただき大分川ダムを作り上げるにあたっていろいろな問題乗り越えていることを知りとても感動しました。またこのように規模の大きな工事にあたって多くの方が協力されていることを知り、それにあたってコミュニケーションの重要性を感じました。今回見学会を開いて頂きいかに自分が今未熟であることを痛感しました。この経験を通してこれから今でもよりいっそう勉学に励み人への感謝の気持ちを忘れずに残りの学生生活を大切にしていきたいと思いました。このようなとても貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

大分工業高等専門学校 都市・環境工学科 / 佐藤 弘弥

11月11日に日本建設連合会主催の大分川ダム見学会に参加しました。まず野津原にある事務所に行って、事務所の中で、大分川ダム建設事業の発注者である国土交通省の方、受注者である建設技術研究所の方、施工者であるJVの方からそれぞれお話を聞きました。行政・コンサル・ゼネコンと各自立場の違う三者ですが、行政では工事を行うことについて退去を余儀なくされた、住民の方々への説明とその生活の再建、コンサルではその土地の地盤や形状にあったダム設計の検討とシミュレーターを使った確認実験、ゼネコンではダムの品質・費用・工期・安全・環境のバランスとりなどそれぞれに大変な苦労を重ねていくことで大分川ダムが出来上がっていくということが分かりました。また、この三者はどこの抜けてもダムは完成しないので、協力しあうこと、期限を守ること、たくさん話し合うことが大切だと分かりました。次に現場に行き近で、工事しているところを見学させていただきました。ローラーが地面を押す振動や、ダンプカーが走る振動を肌で感じることは良い経験だったと思います。また、ダムが出来上がったら水に埋まってしまう、決して立ち入ることのできないところに自分たちが今、立っていると思うととても特別な感じがしました。GPSなどで測量を簡単に行うということは知っていましたが、ダンプカーが砂を運んだ回数などをカウントするというように、作業の効率化を図っている事例があるということは初めて知ったのも驚きました。最後に事務所に戻って質疑応答の時間を設けていただきました。その時に「けんせつ小町」バッジをもらいました。これは建設業に従事する女性のことだそうです。将来建設業に携わることになるかどうかはまだ分かりませんが、どのような現場においても、大体男性と同じように仕事をすることができるということを知ったので、とてもよかったです。将来、自分がどんな分野でどんな仕事をするのかはまだ、想像できませんが、今回の現場見学を通して将来のことについて視野が広がりました。より多くの選択の中から自分のやりたい仕事を選ぶように、これからも勉強に励みたいと思います。

大分工業高等専門学校 都市・環境工学科 / 唐下 日菜妃



大分川ダムは、大分川水系七瀬川の上流約21km、大分県大分市大字下原地先に建設されている多目的ダムです。形式は、堤高91.6m、堤頂長496.2m、総貯水容量約24,000千m<sup>3</sup>の岩石や土を積み上げてつくるロックフィルダム。大分川の総合開発の一環として工事が進んでおり、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の取水などを目的としています。

## 親子現場見学会 五ヶ山ダム建設工事

公募による  
見学会

■日時／平成27年7月30日 ■場所／福岡県那珂川町  
■施工企業／堤体工区…鹿島・飛島・松本特定建設共同企業体 原石山工区…大成・安藤ハザマ・松尾特定建設共同企業体



九州支部では建設業の理解とともに建設業界の担い手確保を図り、また子どもたちの夏休みの思い出づくりに役立つ目的で、2回目となる「親子現場見学会」を開催しました。参加したのは一般公募による親子56人。見学現場は、平成29年度の完成に向けて工事が進む「五ヶ山ダム」です。

参加者は現場に到着後まず、インフォメーションセンターで担当者から工事概要や進捗状況等の説明を聞き、その後にセンター前の広場で測量機器のデモンストレーションを見学しました。その一つ、今話題の無人ヘリ・ドローンが空に舞い上がると子どもたちから大きな歓声がわき上がりました。また、数秒で周囲の地形が3D表示される日本でも珍しいレーザーキャナ、そして光波測量機器などにも子どもたちは時間を忘れて見入っていました。

この後は、原石山工区へ移動。待ち構えるのは街の中では見られない大きな建設車両です。工事の進む様子を遠くに見ながら、実際に重ダンプの運転席に乗り、大きなタイヤの前で記念写真を撮ったり……。普段できない体験に子どもたちも大はしゃぎ。「大きくてびっくり」「自分で動かしてみたい」などの声も聞かれ、夏休みの思い出づくりに最高の一日となったようでした。



ドローンは子どもたちに大人気!



でっかい建設車両をじっくり観察



五ヶ山ダムは那珂川の上流、南畑ダムと脊振ダムの間に建設される、堤高102.5m、堤頂長556.0m、総貯水容量4,020万m<sup>3</sup>の重力式コンクリートダムです。洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水提供、異常洪水時の緊急補給などを目的にしており、完成すれば福岡県で最も大きなダムとなる予定です。

## おやじの日現場見学会

## 福岡201号 筑豊烏尾トンネル(飯塚工区)新設工事

■日時／平成27年8月20日 ■場所／福岡県飯塚市 ■施工企業／鴻池組



九州支部では、建設会社の社員、発注者、設計者のご家族を対象に、お父さんの仕事場を見学してもらう「おやじの日現場見学会」を、福岡県飯塚市のトンネル新設工事の現場で実施しました。この見学会は九州地方整備局および九州建設業協会の共催企画で、今回3回目の実施。見学会には9家族26人が参加しました。

見学の前に、まず工事詰所で担当者の方々が工事の目的や工法を説明。その後は工事現場から出る濁水の浄化実験や測量体験なども行われ、写真を撮ったり、不思議そうに測量機器をのぞきこんだりする子どもたちの姿が見受けられました。次はいよいよメインのトンネル見学です。子どもたちは坑口の見える道を歩き、トンネル内へ入っていきます。その姿はまるで探検隊。独特の薄暗いトンネルの中を先端場所へと移動した子どもたちは、マシンが掘削しているトンネル工事の雰囲気をつぶりと味わっていました。

トンネルの前での記念撮影で見学は終了。普段は入ることのできない工事現場ですが、子どもたちもトンネル工事の大変さややりがいなども感じとったはず。工事現場で働くお父さんをもっと好きになったに違いありません。



濁水浄化実験に見入る子どもたち



暗いトンネル内部は独特の雰囲気



九州北部の都市間を東西に結ぶ国道201号は慢性的な渋滞に悩まされており、この渋滞解消や地域活性化、安全性向上を目的に、全長9.7kmに及び飯塚庄内田川バイパスの整備(4車線化等)が進められています。この事業の一環として計画されているのが「筑豊烏尾トンネル(延長約1,530m)」であり、このうちの飯塚工区は長さ581mを掘削するトンネル新設工事です。

# 太宰府市体育複合施設新築工事

建築見学会

■日時／平成27年11月17日 ■場所／福岡県太宰府市 ■施工企業／戸田建設



太宰府市では今、3階建て体育複合施設の建築が進行中。この工事現場を有明工業高等専門学校建築学科の学生たち42人が訪問しました。

見学前にまず発注者が設立の経緯を、次いで設計者や施工担当者が仕事の役割と内容、工夫点ややりがいなどを説明。学生たちも興味深げに聞き入っていました。説明の後は内部見学です。学生たちは3階の観客席から建築状況を見学したほか、2階では「墨出し作業」にもチャレンジ。初めての作業に戸惑いながらも墨つぼを上手に扱い、コンクリートの床にラインを引いていました。質疑応答では、「女性技術者はどれくらい働いているか?」「建築で大変なことは?」などの質問があり、学生たちも建築分野で働く意欲を一段と高めたようでした。

### 参加者の声

太宰府市体育複合施設新築工事の現場見学をして、最初に整理整頓されている現場に驚きました。私はインターンシップや他の現場見学で幾つかの現場を見学してきましたが、これほどまでに整理整頓されている現場を見たのは初めてでした。以前、施工管理者の方から「現場が散らかっていると危険度が増すため、現場の清掃や整理整頓は危険回避の基本である。」と教えていただいた事があります。このことから日頃から施工管理者の方の徹底された指導の下に協力会社の方々が毎日緊張感を持って作業が行われている努力を伺う事ができました。今回の現場見学で得た多くのことを活かして、自分の関わった現場を危険の無い美しい現場にしたいと思います。また出来れば、建築業界をもっと盛り上げて、担い手不足という現状を打破していきたいと思っています。

有明工業高等専門学校 専攻科 建築学専攻 / 堤 直斗

これまでの現場見学では、施工者の方から説明をしていただくことが多く、主に着工からの竣工までの流れやその過程での施工管理の仕事について教わっていました。しかし今回の現場見学では、施工者・発注者・設計者の3者の立場からお話を伺うことができ、これまでよりも建設現場に対する理解を深めることができたと思います。特に、3者の関係性や発案の背景、土地の選定・獲得については詳しいお話を聞いたことがなかったのでとても勉強になり、今まであまり考えたことがなかった発案から着工までの流れがイメージできるようになりました。さらに、現場では墨出しの体験をさせていただき、作業のコツや現場の用語など実践的な知識を教わりました。初めての経験で、あの糸をはじいた瞬間はとても興奮しました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。今回の現場見学を通して、建設業界の魅力改めて感じました。今日の経験や学びを進路決定に役立てていきたいです。ありがとうございました。

有明工業高等専門学校 建築学科 / 関 希望



太宰府市体育複合施設は、西鉄都府楼前駅から徒歩数分の場所に位置しています。敷地面積約18,081㎡で、施設はRC造一部S造の3階建て。柔道・剣道場、多目的ラウンジ、軽運動トレーニング室、そして多彩なスポーツができるアリーナや観覧席などを整備するほか屋外には大階段やデッキ、テラス等を設ける計画で、平成28年秋の供用開始を予定しています。

## 土木の日見学会

# 長崎497号調川トンネル1号新設工事・唐津港(東港地区)岸壁(-9m)(改良)(耐震)工事

公募による見学会

■日時／平成27年11月18日 ■場所／長崎県松浦市・佐賀県唐津市  
■施工企業／調川トンネル1号…前田建設工業 唐津港(東港地区)岸壁…東亜建設工業



毎年恒例の土木学会西部支部と日建連九州支部の共催による「土木の日見学会」。今回は、約30名の参加者が2カ所の工事現場を訪問しました。

最初の見学地は、西九州自動車道伊万里松浦道路「調川トンネル1号」です。事務所です。発注者や施工者が工事の概要や進捗状況等を説明。参加者はトンネル工法のビデオも見ながら工事現場のイメージを膨らませていました。

その後、作業所近くの工事現場へ移動。坑内に乗り付けたバスから降り出ると、参加者はトンネルの中の多様な建設機械、また掘削された壁や支保工などに目を向けながら工事の先端場所へと歩いていきました。トンネルの先端場所では、実際に掘削機先端のドラムを回転させての掘削作業に全員が驚嘆。日常では決して見る事の無い工事風景に、参加者も感激している様子でした。

ホテルで昼食をとった後、参加者は次の見学地の唐津港へ。当日は雨風がやや強く、波も高かったためフェリーターミナル3階のテラス部分に集まり、担当者の説明を聞きながら工事の進む岸壁を見学しました。

この日は雨の中の見学会となりましたが、終了後はバス内で拍手もわき起こり、参加者の皆さんはだれもが満足そうな表情を浮かべていました。



壁の説明に聞き入る参加者の皆さん



建設現場を遠くからウォッチング



「調川トンネル1号」は、西九州自動車道伊万里松浦道路(全長17.2km)の調川ICと松浦ICの間に新設する2本のトンネルの中の一つで、東側に位置する976mのトンネル。「唐津港(東港地区)岸壁工事」は、老朽化していた岸壁を耐震改良し、国内貨物船の輸送効率化、大型旅客船等の寄港対応や防災機能の強化を図るのが目的で、佐賀県初となる耐震岸壁となります。

## 鉄道工事見学会 熊本駅周辺鉄道高架化事業

■日時/平成27年12月2日 ■場所/熊本県熊本市 ■施工企業/鹿島・九鉄・三軌・鉄建・梅林などの各JV



熊本駅周辺では鉄道高架化事業（JR鹿児島本線等連続立体交差事業）が行われており、この工事の見学に熊本高等専門学校八代キャンパス・建築社会デザイン工学科の学生たち32名がJR熊本駅を訪れました。

見学に先立ち、高専の先輩にあたるJR九州の工事担当者が、建設会社の会議室でJR九州の会社説明、そして高架化工事の目的や事業の流れ、熊本駅の駅舎デザインなどの概要を説明。学生たちはその後、高架化が完了しているJR熊本駅の在来線（上り）ホームに移動し、2階に当たる高所から在来線（下り）の高架工事の様子などを見学しました。当日は雨になりましたがホーム下に見える工事現場を覗き込んだり、またホームに使われている木材などを見回したりして、工事の進む風景をその目に焼き付けているようでした。

その後は1階へ降り、工事現場の間近でくい打ちの状況などをウォッチング。終了後の質疑応答では、「なぜJRを選んだのか?」「仕事の苦労した点ややりがいは?」などの質問があがったほか、「普段何気なく利用している駅でこんなふうに工事が進んでいるとは驚き」という感想も。学生たちにはきっと、鉄道関連の建設や建築の多様な知識を吸収する有意義な時間となったことでしょう。



高架化されたホームから工を見学



在来線のホームで記念撮影



熊本駅周辺の道路と鉄道の立体交差化を図る「鉄道高架化事業」は、踏切事故の根絶や自動車による排ガス・振動・騒音の軽減、周辺地域の交通の円滑化、分断されていた東西地域の一体的発展、駅周辺地域の都市機能強化などを目的に行われている事業です。線路と同時に駅ホームの高架化も進行しており、熊本駅の駅舎改築も計画されています。

## 土木の日ファミリーフェスタ2015

■主催/福岡地区土木の日行事実行委員会・(公社)土木学会西部支部 ■日時/平成27年10月18日  
■場所/海の中道海浜公園(大芝生広場)



### なぜ11月18日は土木の日なの?

なぜ11月18日が土木の日になったかという、2つの理由があります。1つは、土木という漢字をそれぞれ分解すると「土は十と一」「木は十と八」になるからです。もう1つの理由は、社団法人「土木学会」の前身にあたる「工学会」の創立日が、明治12年11月18日であることから、昭和62年にこの日を「土木の日」と決めました。



11月18日は「土木の日」。「土木の日ファミリーフェスタ」は、多くの人たちに土木事業を身近に感じてもらい、理解していただくために「土木の日」にちなんで開催される楽しいイベントです。本年度も天気に恵まれ、また当日は入園無料ということもあって会場には多くのファミリーが訪れました。

イベントエリアには、大人気の建設機械展示&乗車体験コーナーをはじめ参加機関のパネル展示、クラフト体験、エコロジー工作体験、クイズラリー&アンケート、パソコンゲーム&お菓子つかみ取り、電子入札デモゲーム、実験デモンストレーション、エコロジー工作体験コーナー、ドローン展示&よく分かる測量コーナーなど、いろんなコーナーが並びました。またこの日は、ステージで高校生たちが元気いっぱいのパフォーマンスを披露。昼食時には口永良部島チャリティ海鮮鍋も販売され、多くの人が美味しい鍋に舌鼓を打っていました。訪れたファミリーはみんなニコニコ顔。思い出に残る楽しい一日になったようです。

## インターンシップ講演会

■主催/長崎大学 ■日時/平成27年11月30日 ■場所/長崎大学



### 参加者の声

今回、ゼネコン、コンサル、公務員と大きく3つに分けてお話しをうかがいましたが、それぞれの良さ、やりがい、また普段聞けないような話まで教えていただき、とても実りのある時間だったと思います。特に、女性の社員も男性と差異なく働いているという話は印象的でした。最近では、どの会社も育児休暇などしっかりサポートされているようで、実際に勤務している女性社員のお話もしていただき、自分もそのように活躍できる技術者になりたいと思いました。また、就職活動に向けての自己PRや面接などについてもアドバイスをいただけたので、これから近づいてきている就職活動の準備も始めていきたいです。今回は貴重なお話しをしていただき、ありがとうございました。

長崎大学 工学部工学科 社会環境デザイン工学コース/鶴田 好美

### 平成27年度インターンシップ講演会に講師を2名派遣!

日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうための企画。平成27年度は東亜建設工業(株)東京支店と若築建設(株)九州支店から2名が派遣され、学生に建設現場の様子や仕事のやりがいなどを説明しました。

## 鉄道建設工事技術講習会

■主催/日建連九州支部・鉄道建設本部 ■日時/平成27年9月3日 ■場所/福岡県中小企業振興センター



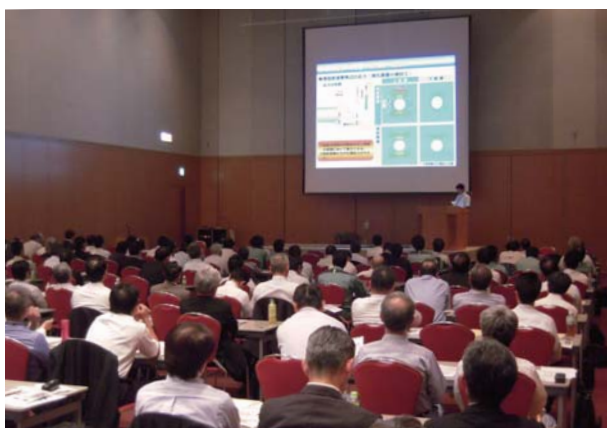
工事を取り巻く環境も工期・工費・品質確保、施工環境ともに厳しさを増すなか、施工者側のみならず監督側も現場管理業務が多様化・多忙化し、現場業務を通しての鉄道建設固有技術の継承も希薄化の傾向にならざるを得ない状況です。

鉄道は、大量・高速・定時性を有する安全安心な輸送手段であり、地球環境保全やエネルギー問題への対処、少子高齢化への対応等の観点から、21世紀においても促進整備への期待は大きいものがあります。しかしながら熟練技術者の大量退職時代の到来、鉄道工事量減少などもあって必ずしも鉄道工事経験者を鉄道工事現場に配置できる環境になく、また鉄道

そこで日建連鉄道建設本部では、将来にわたって健全な鉄道構造物を提供するために鉄道特有の建設技術に精通した技術者育成が不可欠という認識のもと、鉄建協・土工協と継続して行われてきた「鉄道建設技術講習会」を今年度も開催しました。なお、例年通り午前の部は8年前に受講した方々の更新講習、午後は通常講習が開催されました。

## 建設技術講演会

■主催/日建連九州支部 ■日時/平成27年9月16日 ■場所/福岡国際会議場



たい」と挨拶。その後に3つの講演が行われました。

建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。まず開催に当たって相川善郎支部長が、「建設業の生産性の破綻を防ぐためにも、長期ビジョンにおける担い手確保という高い目標に向かって役割を果たし

最初は、「担い手3法の改正と今後の取り組みについて」を演題に九州地方整備局企画部の足立辰夫技術調整管理官が講演。続いて「工事報告:鶴田ダム再開発事業について」と題して川内川河川事務所の大林和幸副所長と施工した鹿島・西松JVの滝口紀夫所長が、国内最大規模となる再開発工事の特徴や進捗状況などを話されました。そして最後は「再生と進化に向けて～建設業の長期ビジョン」との演目で、日建連の竹島克朗常務執行役が日建連策定の長期ビジョンの趣旨や将来目標などを説明されました。

## 九州建設技術フォーラム2015

■主催/九州建設技術フォーラム実行委員会 ■日時/平成27年10月5・6日 ■場所/福岡国際会議場



「九州建設技術フォーラム」は、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が、それぞれの新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。技術情報のプレゼンテーションや展示、新技術相談などの形をとりながら連携を深め、九州における建設技術の更なる発展を目指して毎年開催されています。

平成27年度は「建設技術が支える九州創生」というキャッチフレーズのもと、基調講演、記念講演、ブース展示、プレゼンテーション、新技術相談、ポスターセッションなどが2日間にわたって実施されました。会場へは、日建連会員企業をはじめとする建設企業各社に加え、行政、工業系の大学・専門学校・高校、そして研究機関などの多様な分野の人々が訪問。最新の建設技術の情報を収集するために各講演や発表に真剣に耳を傾けていました。社会人に交じって高校生、専門学校や大学の学生たちも多く見受けられ、昨年同様、今年も多くの方が訪れた建設フォーラムは活況のうちに幕を閉じました。

## 災害防止総決起大会

■主催/日建連九州支部安全環境委員会 ■日時/平成27年11月16日 ■場所/福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にありますが、死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。九州支部では、労働災害の撲滅を期して「災害防止総決起大会」を福岡労働局後援のもと開催しました。

今年度は相川善郎支部長の挨拶、福岡労働局労働基準部

安全課の坂井雅之課長の来賓挨拶に次いで、福岡労働局労働基準部安全課の上川勝義主任産業安全専門官が「建設業における労働災害の防止について」、九州地方整備局企画部技術管理課の長岡一成課長補佐が「工事事故の現状と安全対策について」と題して講演されました。その後は、部外講師の黒田クロ氏が登壇され、「事故・災害をなくすコミュニケーション」をテーマに、「発想の転換」見方・やり方・考え方カエル〜という内容で事故や災害をなくす方法などを話されました。なお最後は、宮本雅史安全環境委員会第1小委員長が、安全環境委員会の永重雅守副委員長に決意表明を読み上げて大会は終了しました。

## 意見交換会

■主催/日建連九州支部 ■日時/平成27年11月25日 ■場所/第三博多借成ビル



の発展や魅力ある産業になるための課題に取り組む」と力強く挨拶されました。

これを受けて、九州地方整備局の小平卓企画部長は「品質確保と建設業の担い手確保の実現に向けてともに努力していきたい。担い手確保では広報等と制度における課題解決も必要であり、技術力や効率性の向上も重要」と述べられました。次いで九州支部が「日建連の活動について」、九州地方整備局が「九州圏広域地方計画について」の説明をそれぞれ行い、その後「アンケート結果について」をテーマに、約2時間にわたって意見が交換されました。

毎年、九州支部では国土交通省九州地方整備局と「公共工事の諸課題に関する意見交換会」を開催しています。平成27年度は総勢19名が出席して活発な意見の交換が行われました。意見交換に先立ち、相川善郎支部長が「この意見交換によって双方におけるパートナーシップの更なる強化、そして請負契約の適正化に向けての自助努力を図りたい。今後の建設業

## 円滑な施工の確保に関する講習会

■主催/日建連九州支部積算資材委員会 ■日時/平成27年12月1日 ■場所/福岡国際会議場



最初は、「設計変更ガイドライン(案)・工事一時中止ガイドライン(案)~改正のポイント」と題し、九州地方整備局企画部の足立辰夫技術調整管理官が講演。公共工事の品質確保の促進に関する法律に基づく発注者・受注者の責務のほか、施工効率と品質の向上対策における様々な施策を説明され、その後に、設計変更ガイドライン(案)の事例も解説されました。続いて「適切な工期設定と工程管理について」という演題で、日建連の木村昌司常務理事が講演。工期延長の実態、工事一時中止の実態、工期短縮の実態、適切な工期の設定、施工現場における週休2日の確保といった内容を話されました。

九州支部では、九州地方整備局の設計変更ガイドライン案に関する「円滑な施工の確保に関する講習会」を開催しました。講習会冒頭で、宮崎文秀副支部長が講習会の目的を述べた後に「九州地方整備局の設計変更ガイドライン案の施策を理解し、自助努力も図りながら建設業界が魅力ある産業へと発展していくよう取り組みたい」と挨拶。その後に2講演が行われました。

## 第1回現場実務勉強会

■主催/日建連九州支部積算資材委員会 ■日時/平成27年12月18日  
■場所/道改国第2号中津3号トンネル工事(1工区)・大分県中津市 ■施工企業/前田・西武・石栄特定建設工事共同企業体



日建連九州支部では、若手技術者が国の施策や最新建設技術等の理解を深めて資質向上を図ることによって良質な社会資本を提供し、ひいては豊かな国民生活や産業基盤の充実に寄与することを目的に「第1回現場実務勉強会」を開催しました。

今回の現場は、「中津3号トンネル工事(1工区)」。

所長からの工事概要説明を受けた後に、まずは坑口前の作業構台で現場の様子を確認。トンネルからベルトコンベアーで排出されるズリがピットに落とされ、ダンプが積み込む様子なども見学しました。トンネル内では、建設機器や壁の状況などに目を向けながら最新技術によって効率的に進む工事を見学しましたが、トンネルから出た後には発破にも立ち会うことになりました。また、その後はコンクリートを製造するパッチャープラント、濁水処理設備なども見学して勉強会は終了となりました。

平成28年1月には最新テキストでの実務勉強会も開催。若手技術者はコンクリート工事のチェックポイントなどを学びました。

## 安全環境委員会活動

### 現場点検の実施状況および講習会の開催状況

#### 〈平成27年度 安全環境委員会の主要活動〉

部会別区分	現場点検	講習会受講者
交通	2回 10現場 17名	1回 93名
地下埋	0回 0現場 0名	1回 54名
火薬類	2回 6現場 10名	1回 42名
環境	3回 10現場 17名	1回 78名
計	7回 26現場 44名	4回 267名



#### 平成26年度 本部表彰現場

##### 環境対策優良現場

- 前田建設工業株式会社
- 九州中央病院作業所
- 公立学校共済組合 九州中央病院新病棟新築工事 他
- 発注者/公立学校共済組合



## 団体の概要

### ■一般社団法人日本建設業連合会

#### ■設立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、平成23年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、平成25年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

#### ■目的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与すること、を目的としています。

#### ■会員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者及び、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。

平成28年2月1日現在の会員数は、法人会員139社、特別会員8社です。

#### ■役員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

#### ■機関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

- ①総会  
定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員を選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。
- ②理事会  
通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。
- ③事業本部および委員会  
協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、26の委員会と3つの本部を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。
- ④支部  
全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。
- ⑤事務局  
本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

### ■九州支部の概要

#### ■設立

当支部は、本部の合併により、平成23年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

#### ■会員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を経営する業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。設立以来の会員数は平成28年2月1日現在で61社を数えています。

#### ■役員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は5名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

#### ■事業

本支部は次のような事業を行っています。

- ①災害対策への対応
- ②公共工事の円滑な実施
- ③安全・環境対策等の推進
- ④請負契約制度の改善及び積算の適正化と資材対策の推進
- ⑤技術開発の推進
- ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
- ⑦広報活動の推進

#### ■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

#### ■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、平成8年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は43社を有しています。

### Topics 平成27年4月、日建連は内閣総理大臣より「指定公共機関」に指定されました。



指定公共機関とは、独立行政法人をはじめ日本銀行、日本赤十字社などの公共的機関及び、電気、ガス、輸送、通信その他の公益的事業を営む法人で、内閣総理大臣が指定するものを言い、平成27年4月1日付けで日建連を含む75機関が指定されています。この指定公共機関は、平時においては「防災業務計画の作成」「防災訓練の実施」「防災に必要な物資・資材の備蓄」などを行う義務を有し、緊急時においては「災害時における応急措置の実施」「災害時の情報の収集・伝達」「防災業務計画に基づいた災害応急・復旧の取組み」を行うとされ、**災害の予防・応急・復旧**の各段階で重要な役割を担っています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 平成28年2月1日現在61社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店  
青木あすなろ建設(株)九州支店  
あおみ建設(株)九州支店  
(株)浅川組九州営業所  
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

エ

(株)エム・テック九州支店

オ

大木建設(株)九州支店  
(株)大林組九州支店  
(株)大本組九州支店  
(株)奥村組九州支店  
オリエンタル白石(株)福岡支店

カ

鹿島建設(株)九州支店  
鹿島道路(株)九州支店  
株木建設(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店  
(株)鴻池組九州支店  
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店  
三軌建設(株)  
三幸建設工業(株)九州支店

シ

清水建設(株)九州支店  
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店  
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店  
大成ロテック(株)九州支社  
(株)竹中工務店九州支店  
(株)竹中土木九州支店  
大日本土木(株)九州支店  
大豊建設(株)九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店  
東急建設(株)九州支店  
東洋建設(株)九州支店  
戸田建設(株)九州支店  
飛島建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支社  
日特建設(株)九州支店  
日本国土開発(株)九州支店  
日本道路(株)九州支店  
(株)NIPPO九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

(株)ピーエス三菱九州支店

フ

(株)福田組九州支店  
(株)フジタ九州支店  
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店  
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店  
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店  
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

支部長	大成建設(株)九州支店長 相川 善郎	副支部長	(株)安藤・間九州支店長 小松 健
副支部長	西松建設(株)九州支社長 宮崎 文秀	〃	鉄建建設(株)九州支店長 城本 政雄
〃	梅林建設(株)社長 梅林 秀伍	〃	(株)大林組九州支店長 林 雅仁
運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 田野 慎一郎	運営委員	飛島建設(株)九州支店長 曾我部 真也
〃	(株)奥村組九州支店長 大石 宏和	〃	日本国土開発(株)九州支店長 沖長 靖央
〃	鹿島建設(株)九州支店長 河野 健吾	〃	日本道路(株)九州支店長 石井 敏行
〃	九鉄工業(株)社長 甲斐 総治郎	〃	(株)NIPPO九州支店長 真田 昭彦
〃	(株)熊谷組九州支店長 平島 司	〃	(株)フジタ九州支店長 岡野 利喜造
〃	(株)鴻池組九州支店長 竹下 浩	〃	前田建設工業(株)九州支店長 永重 雅守
〃	五洋建設(株)九州支店長 下石 誠	〃	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
〃	佐藤工業(株)九州支店長 八代 勇八	〃	三井住友建設(株)九州支店長 緒方 滋
〃	清水建設(株)九州支店長 山地 徹	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 須原 大介
〃	(株)銭高組九州支店長 衛藤 洋一	〃	東急建設(株)九州支店長 清水 正敏
〃	(株)竹中土木九州支店長 森田 英仁	〃	(株)不動テトラ九州支店長 濱野 尚則
〃	戸田建設(株)九州支店長 窪田 浩一		